

# やまなし未来会議 会議録 (平成27年度第3回会議)

日 時 平成27年11月9日(月) 午後2時30分～5時

場 所 山梨県庁別館3階「正庁」

## 出席者

- ・ 委 員 (50音順)  
飯野委員、牛奥委員、加藤委員、北村委員、木田委員、笹本委員、進藤委員、  
角南委員、谷口委員、中込委員、萩原委員、廣瀬委員、渡辺委員
- ・ 県 側  
後藤知事(議長)、新井副知事、矢島公営企業管理者、阿部教育長、  
松谷知事政策局長、佐藤リニア交通局長、前総務部長、堀内防災危機管理監、  
一瀬森林環境部長、江里口林務長、赤池エネルギー局長、平井産業労働部長、  
茂手木観光部長、中嶋県土整備部理事、布施企画県民部次長、  
相原福祉保健部次長、大熊農政部次長  
(事務局：知事政策局)市川理事、弦間理事、手塚次長、中澤政策参事、  
三井人口問題対策室長、原政策主幹、村松政策主幹、高野政策主幹、  
奈須政策主幹

## 会議次第

1. 開会
2. 知事あいさつ
3. 議事  
(1) ダイナミックやまなし総合計画(素案)について  
(2) 山梨県まち・ひと・しごと創生総合戦略(素案)について  
(3) 富士の国やまなし国際総合戦略(仮称)について
4. 閉会

## 内 容

### 1. 開会

司会：松谷知事政策局長

### 2. 知事あいさつ(要旨)

(後藤知事)

委員の先生方におかれては、大変お忙しい中、第3回「やまなし未来会議」に出席いただき心から感謝を申し上げます。

9月の第2回会議から2ヶ月強が経過した。この間10月5日には、ご案内のとおり、本県出身の大村智北里大学特別栄誉教授がノーベル医学・生理学賞を受賞され、10月26日にはそのご功績に対し、県としても特別文化功績者という形で表彰させていただいたところである。本当に大きな偉業だと改めて感じる。私が大村先生とお話をしながら強く思うことは、ややもすれば私たちが見失いがちな山梨の魅力というものを本当に強く発信していただいているということである。大村先生は人のために

役に立ちたいという思いだけではなく、郷土への強い思いで今日に至ったと受賞の際にお話をされたことを今でも鮮明に覚えている。

その10月5日には、これもご案内のとおり、アトランタにおいてTPP協定が大筋合意された。これについては、政府において大筋合意の内容について順次公表しているようであるが、山梨県としてもマイナスの影響が懸念される分野、特に農業分野を中心に、県独自の施策について国に呼応した形で、マイナスをプラスに転じていかなければいけないという考えで、これから整理をしていく。

また、今日3つ目の議題として議論を賜ることになる山梨県国際総合戦略については、これからの新しい時代に呼応し、県庁全体だけでなく、全県的に、産業界や市町村とも連携をしながら人材育成も含めて、国際的な視点をどうするかについて、今とりまとめをしていることをご報告しながら、ご協議いただければと考えている。

それに合わせて、10月23日の第7回世界文化遺産協議会の中で、来年2月までにユネスコに提示しなければならない新たな富士山保全に関するビジョン、そしてその計画について、静岡県並びに国の機関、さらには市町村長の皆様方も含めて日本語での合意形成をさせていただいた。富士山が世界遺産になって2年強が経過したが、やはり世界遺産になった効果というものは絶大である。私たちがこれからどのように後世に向けて富士山の優れた部分を残していくかという保存の部分と、それをベースにした地域の活性化の部分、この両輪を回らなければいけないという思いを持ちながら、今日中心的に議論いただく「ダイナミックやまなし総合計画」及び「まち・ひと・しごと総合戦略」についても、その部分について、これからの山梨県としての方向性が問われることになると考えている。

第1回、第2回の会議をベースにししながら、委員の先生方からご議論をいただいたものをさらにブラッシュアップをして、年内に総合計画、総合戦略ともにまとめあげていくスケジュールになっている。今日は限られた時間ではあるが、ぜひ委員の先生方からは、それぞれの分野を超えた中で建設的なご議論をいただき、よりよい形で総合計画、総合戦略ともまとめあげていきたい。また、この2つの基本的な計画に加え、残る37の部門計画もこの国際総合戦略と同時に検討している。

最後になるが、11月5日からは新・農業施策大綱、森林・林業振興ビジョン、さらには第3次社会資本整備重点計画という大きな3つの計画についても、今県民の皆さん方のパブリックコメントを行っている。これらも山梨の産業ベースから考えれば大きな計画となるので、それも含めて多様な形でご議論いただけるよう心からお願いして、座長としての挨拶とさせていただきます。今日はどうぞよろしく申し上げます。

### 3. 議事

議長：後藤知事

- (1) ダイナミックやまなし総合計画(素案)について
- (2) 山梨県まち・ひと・しごと創生総合戦略(素案)について

議題(1)(2)について、資料により事務局から説明し、両議題について一括して次のとおり意見交換を行った。

説明：議題(1) 中澤知事政策局政策参事

議題(2) 三井人口問題対策室長

(谷口委員)

2点、いずれも「まち・ひと・しごと創生総合戦略」について話をさせていただく。

まず1点目。「人材」のページにおいて、「幼少期から郷土愛を育み、ふるさとへの誇りを醸成する」と記載がある。これは非常に重要なポイントを書きいただいていると思っている。当地に着任して以来、いろいろな方々とお話しをする中で、山梨県では大人になったら東京に行って活躍することを、促進するような地域的な雰囲気があったということは何度かお聞きしている。もちろん国全体のことを考えれば、中央で活躍することは非常によいことだと思う。また、若い人には都会の大学で学びたいという気持ちがある方も多いと思う。ただ、仮に東京など他の都道府県の大学に行かれたとしても、大学卒業後は多くの県内出身者の方々が、生き生きと地元で働いて家庭を持たれるということが地方創生という文脈では非常に大事だと思う。

そのためには、もちろん別途記載がある「企業誘致による魅力的な就職先を増やす」などの対策は当然行われるということであるが、小さい時から山梨県の素晴らしい歴史や伝統・文化を子どもに教えることによって、ふるさとへの誇りを持ってもらうことは、即効性はないかもしれないが、将来若い人たちが就職活動をする際に、無意識のうちにUターンを促進するような効果があるのではないかと思う。そのため、ここに書いているポイントは非常に重要だと思うので、ぜひ進めていただきたい。

2点目。「雇用」のページに「県内中小企業の経営の安定を図るとともに、創業や経営革新に向けた新たな設備投資を促すため、金融機関等と連携し、資金貸付や設備貸与を行う」と記載がある。これは非常に重要なポイントだと思っているが、現実的には山梨県は非常に資金需要が少ない県である。私どもは47都道府県において、毎月貸出残高を見ているのだが、山梨県はマイナスの月が非常に多いということで、47都道府県中下から数えても何番目というような月が非常に多く続いている。ただ、私どもの短観で毎回調べているのだが、金融機関における貸出しについては、これだけ金利が下がっているのに貸出しが厳しいということはないという結果が出ているので、ぜひ推進される際には、金融機関の方々と具体的にどうしたらこのような資金需要が生まれるかについて議論いただいて、施策として進めていただければと思う。

(進藤委員)

私は、基本的に今回提示いただいた「総合計画」と「総合戦略」について、これをぜひ推し進めていただきたいと思う。

その中で1点、考えを聞かせていただきたい。総合計画の中の「基幹産業発展・創造プロジェクト」において、「本県経済の基盤強化に必要な基幹産業を拡大・発展させる」とのことであるが、基幹産業としてどの産業を捉えているのか。

それからもう1点、極めて具体的な話で恐縮だが、「健やか・快適環境創造プロジェクト」の中の「魅力あふれる景観・環境づくり」の主な施策の中に、電柱の地中化をぜひ加えていただきたい。というのは、他のことが仮に何もできなかったとしても、電柱の地中化が画期的に進んだとしたならば、山梨の景観・環境は飛躍的に改善すると私は考えているので、ぜひ具体策の中に電柱の地中化を加えていただきたい。

(角南委員)

私が注目して読ませていただいたのは、「小学校、中学校、高校の人材育成」のところである。これは多分将来にとって非常に重要な施策になる。先ほど谷口委員からもお話があったように郷土愛と言うのは非常にいいのだが、産業競争力という観点で書かれているところにつながっていく人材育成はあまり書かれていないのではないかと。一言で言えば、まずITについてのリテラシーは、もうマストな話である。学力向上

イコールITリテラシーそのものにこれからなっていくのだろうと思う。そこで、例えば他県に比べて非常に先進的な取り組み、アメリカなどでITリテラシーのいろいろなプログラムが開発されているので、そういったものを実験的にどこかで導入して、サイバーセキュリティも含めて、これからの将来への人材投資をするという具体的な何かイメージがないといけないと思う。多分、このあとに出てくる基幹産業云々というところは、新しい競争力を付けるためにはITがまず基本になると思う。これは6次産業のところもそうであり、今までの地場にあるリソースを世界で戦えるように転換していく物づくりについてもそうである。インダストリー4.0、それからこれからはAIという時代が来る。それから燃料電池もそうであるが、そういったところにやはり人材が出ていくことが重要であり、この小・中・高のところからしっかりと人材投資がされることが必要だと思う。

それからもう1点。山梨モデルとは何かと聞かれた時に、ぜひ何かひと言で「これが山梨モデルです。」という説明ができるようなものがあってほしいと思う。つまりどういうことかと言うと、私は今まち・ひと・しごとに関係で、中央の政府機関の地方移転関係の委員をやっており、最近ずっと都道府県のヒアリングをしているのだが、皆さん同じようなことを仰っていて、何が決め手になるのだろうと。その時に、ひと言「山梨モデルというのはこれです。」という、おそらく山梨県が総合戦略を策定する上で、競争相手となる県に対して何が有利となるのか、何が特色ある山梨モデルなのかということについて、もちろん県の方もそうであるが、県全体で共有できる何かメッセージみたいな、「これがうちの特色です。」というものがあると、よりどこが競争相手で、それに対して何がアドバンテージなのかということが、この素案が外に出ていく時に非常に分かりやすくなるのではないかと思う。

(加藤委員)

「ダイナミックやまなし総合計画」並びに「まち・ひと・しごと創生総合戦略」について、私の印象は一般的にはよく書かれていると思っている。ただ、「ダイナミックやまなし」を推進する上でのことからいくと、メリハリが少し弱いのではないかとも思っている。もっとスパイスを効かせるところは効かせてほしいということで、機械電子産業を代表してここに出させていただいているので、そのことを強く言わせていただきたい。ここのところの景況感というのは、少し上がっている。去年機械電子工業会は工業出荷額が約67パーセントということになっているが、一昨年は1兆9千億円台まで落ちている。最近出た速報から言うと、去年は2兆1千億円。おそらく今年の分を集計すると、もっと上がっているかと思っている。これは平成22年度を100としてということなのだが、今後非常に危惧しているのは、機械電子ということで機械のイノベーションのことも相当ある。これからはロボット化でいろいろな形で人工知能的なものを入れたものが出てくると思う。それと電子関係では、それぞれ産業民生の機器ならびに半導体、電子部品といったものを含めているが、イノベーション、構造改革が非常に激しい。ここ6、7年見ていると、半導体は全国的に見てもほぼ半分になった。ところがそれをカバーするように電子部品とかセンサーとか、こういったものは逆に増えている。そこでもっと産業を発展させて強化する上で、研究開発という部分も当然必要であるが、それだけではどうもスピード的に間に合わないのではないかと思う。そこで、「企業を誘致する」とかいろいろ書いてあるが、できれば今電子部品産業において、3千億、5千億という会社が多かったのだが、皆軒並み1兆円に上がってきた。ですので、これは日本の産業として20兆円ぐらいにはなっているのではないかと。では山梨を見た時どうかとした場合に、こちら辺を本当に強化するためには、内陸型産業になっているので重工業ではなく、山梨に似合うよう

な産業などの誘致を図るといいのではないかと。当然、地場中小企業というのは大手からの仕事というのが大体7, 8割になっており、独自に自社製品で食べていく会社というのはせいぜい2割ぐらいだと思っている。ですから、そういったことに対する動きについて、少し政治的な主導ができるかどうかと思う。例えば、スマートフォンが出たことによって、なくなっている産業というのは幾つかある。ゲーム機であり、デジカメのコンパクトももうほとんどなくなっている。それとナビゲーションもなくなるだろう。産業というのはそういうふうに進化しているのだから、なくなってしまうからしょうがないではなく、先手を打って新しいものを導入して、産業をさらに発展させていくことをするためには、研究開発プラスやはり誘致、優秀な会社に来てもらって、我々機械電子工業会もがんばらないと山梨はやはり成り立たないのではないかと

思っている。

それについて、人材の問題。いろいろな問題があるが、誘致に関して結構動きが出る。これはまた知事にも個別に会った時にお話ししようかと思っていたのだが、実は来年の5月を目途に多摩から甲府へ本社移管するという動きで、100名程度の人移ってくる会社と今取り組んでいる。こういったことを重ねていけば、先ほど5年間で3,000人の雇用を増やしたいと説明があったが、やり方によればそんなに難しくなく、リニアというインパクトも結構効くと思う。そのことは人材にも影響するし、産業構成にも影響するというので、もう一言だけ申し上げたいのは、本当に必要な人材、これは技術屋、エンジニア、ワーカーなどもあるが、皆さんと散々議論したように若年者が今減っている。これらについて、他国の例を取ると、やはり働ける人は職場で堂々と自分の得意なもので働いてもらう。介護や福祉などにおいては、必要な労働量に見合い、外国人もある程度入れて、その補いをしてもらうというようなことを当面しないと、山梨の産業を大きくしようとしても、私は人材面が壁になると思う。働き手が介護の問題に直面すると働き手がどんどんいなくなる。だからそのようなことも含めて、産業の増強、拡大ということをや的过程中で、解決すべきことがたくさん出てくるが、それらについて対応できるようメリハリを付けていただければありがたいと思う。

(松谷知事政策局長)

まず進藤委員からの基幹産業に関するご質問について、総合計画では基幹産業について、これまでずっと県内GDPを支えてきた機械電子工業を中心とした産業ということを考えて、そこに記載させていただいている。先ほど加藤委員も仰ったが、それを囲む中小企業も含め、これまで山梨県の産業を主に支えてきたという意味合いで基幹産業と規定させていただいている。

それから、谷口委員からは資金需要等について建設的なご意見をいただいたので、それについては取り組んで参りたいと思う。

それから谷口委員、角南委員が仰った山梨への郷土愛を持つような教育が大切という点について、前回の会議でもそのような意見が出されたので、それについても力を入れて取り組んで参りたいと考えている。

さらに、角南委員のITリテラシーについてのご意見であるが、今回の資料は概要として書かせていただいているが、今後飛躍に向けての教育の基本となるだろうということであり、これについてもまたどのように記載できるか検討して参りたい。

それから角南委員の仰った山梨モデル、いわゆるメッセージとして人口ビジョンの時にも書かせていただいたが、そういう山梨の特徴を生かした産業、取り組みについても意を尽くして参りたい。

それから加藤委員の仰ったメリハリについて、これはどうしても総合計画となると、

全体的に網羅せざるを得ないところもあるが、工夫をして参りたいと考えている。

(後藤議長)

最後に加藤委員からお話いただいたメリハリの件については、先ほど中澤参事からの説明の最後の方でもあったが、他の部門計画等についても今最終版になっているもの、そして年度内にまとめるものは1月、2月の始めぐらいまでに素案を作り、パブリックコメント等を実施して取りまとめを進めていく。総合計画に書ききれない部分についても、県民の皆様と共有すべきだと思っているので、部門計画等の記載の仕方、また目標感の持ち方も含め、また、角南委員からお話があった「山梨らしさ、山梨モデル」についても正に仰るとおりであるので部門計画の記載、内容の整理の仕方も含めて対応していきたい。総合計画も総合戦略も実は本体になると何十ページもあるので、今日は概要版としてまとめてみたものである。今委員の先生方からのご意見については、本体の策定までまだ時間があるのでその中で対応していきたい。

(北村委員)

まず、「人材」のページの「若者・大学生の定着」において、「COC+」を挙げていただいているが、私も山梨大学でCOC+を担当することになっており、これは県内11大学合わせて取り組むということで、県と産業界の方にぜひ協力をお願いできればということで、県の総合戦略の基本目標の中に取り上げられていただいているのはありがたい。

それから1つ、リニアと道路基盤の件が総合戦略の「地域」のページにあるのだが、これは基本的に「雇用」、あるいは産業をどういうふうに創っていくかという基盤になるのではないかと考えている。それで、リニアを地域の産業とどう関係付けていくかということが難しいところであるが、非常に重要なところである。それとリニアと幹線道路網、例えば中部横断道や西関東道路、それから中央道などとインターでつなぐというような話にはなっているのだが、県内全体の幹線道路網をどう考えていくかということで、富士山の方とどういうふうに結んでいくのかも含めてネットワークとして考え、それがこれからは観光業を中心とする第三次産業も活性化していかなければいけないということもあり、富士山を生かすということもあるので、そういった面での基盤と考えた方がいいのではないかと考える。確かに生活的に便利ということはあるかもしれないが、戦略としては県内のGDPにどのくらい効果が出るかということを考えて、ネットワークを考えていく必要があるのではないかと考えている。実は東京圏と言っているが、東京から見ると山梨県はいつも甲信越というグループになっており、関東圏などにはあまり入っていない。イメージされているのは中部圏である。大学もそうであるが、静岡とか愛知県とかと一緒にみなす人が多い。だから東京あるいは関東圏ということで考えていくことが、一つはイメージの戦略としてあるのではないかと考えている。それは交通とは直接関係ないのかもしれないが。

それから2つ目として、「子育て環境」のところ、やはり一番重要なのはワーク・ライフ・バランスだろうと思っている。県内では働いている比率からいくと、女性が4割、男性6割ぐらいか。そのことから、女性が働きやすい、そして子育てもできるという環境を考えていくべきではないかと思う。もちろん保育所やそういった施設は県内ではしっかりできており、かなり揃っていると思っており、むしろ働く場の問題というのが大きいように思っている。子育ての面については、その辺りに力を入れてみてはいかかかと思う。

(飯野委員)

全体としては本当に各方面に目配りをしており、いろいろな内容が入っていると思う。その中で幾つか感じるところがある。

1点目は、北村委員が仰ったように女性の目線というか、女性の活躍ということをもう少し強めにエッジを利かせてもいいかと思っている。前回の会議における若い人たちへのアンケートの中でも、女性たちが仕事のやりがいや面白い仕事を求めており、東京に出て行ってしまうという結果が示されていた。仕事の中身、やりがいを感じられる仕事ができるということは、すごく大切なことだと思うので、子育て環境については、現在山梨県では待機児童もいない状況があるが、子育て支援にも取り組みつつ、やはり仕事の中身で活躍できる場をつくるという視点が必要かと思う。

これについては、ワーク・ライフ・バランスだけではなく、経済活動を活性化させるための女性の視点、観光にしても何にしてもそうであるが、全体的に女性の目線を大事にするような戦略であってほしいと思う。TPPの大筋合意文書の中にも「女性の活躍そのものが経済の開発に寄与するということが認められる」という文言があったが、山梨に来てみて感じるのは、女性が活躍できる場がちょっと少ないところがあるということである。そここのところに力を入れるということ、もう少しアピールしてもいいのではないかとこのところが1点目である。

それからもう1点は、財政的には非常に限りがあるので、何もかも全て官がやることではないと思う。この資料を見るといろいろな政策が書いてあるが、もっと住民力や地域力、地域の人たちが主体になってやれる部分もかなりあると思うので、地域の人たちが活躍できる政策、地域の人たちのパワーを生かして進める政策をやるというアピールもあっていいのではないかと感じた。

(牛奥委員)

まず1点目、ダイナミックやまなし総合計画の素案についてである。

時代の潮流、それから本県の現状、本県のポテンシャルについては、よく状況把握ができて整理されており、課題に対して6つのプロジェクトを展開していくという方向が理解できた。6つのプロジェクトを具体化するための21の政策と、その各々の政策を構成する具体的な取り組みについても説明いただいたが、実際に誰が何をどうしていくのかという具体性がないため、分かりにくい印象を受けた。それから女性団体という立場で申し上げるとすれば、4、5のプロジェクトなどにおける施策について、より具体的な取り組み内容を示していただけたら大変ありがたいと感じた。

それから2つ目として、まち・ひと・しごと創生総合戦略素案についてである。

雇用・人材・子育て環境・人の流れ・地域と5つの分野における基本目標を設定し、比較的具体的な取り組みを挙げているように思われるが、数値目標が現実のものとなるよう、さらに具体的な内容検討が必要ではないかと思う。

(萩原委員)

2点ある。まず1点目は、先ほどから山梨らしさとか財政的に限りがあるという話があった。そのことを私も十分感じており、これから計画を具体化していく時には、あるいは何十ページに及ぶその計画本体の中にはそういった話が盛り込まれているのだろうと思うが、山梨の中にあるいわゆる自治体とどう連携をしてやっていくのだろうかと考える。私は南アルプス市に住んでいて甲府に通勤をしているが、双方の自治体がどういう役割を持って山梨全体を盛り上げていくかということが住民あるいは勤労者として、いま一つ見えていない。山梨の中には幾つかの市町村がある。それぞれに得意分野もあれば苦手分野もあるだろうと思う。それは立地にもよるし、交通関

係にもよる。それぞれの地域でまち・ひと・しごとのいろいろな戦略会議を設けて検討し始めているという話を新聞報道で幾つか耳にしており、もうすでに出来上がってきているという話も聞くのだが、これが県の計画の中ではどうリンクしていくのだろうかと思う。その中にはやはり山梨らしさとは別にその市町村の特異性というものがある。必ず生かされるだろうし、それぞれにやはり財源というものがある。それをどううまく活用していくのだろうかという点がいま一つ見えていない印象を実は持っている。その辺のところをもし分かれば、少し明確にさせていただくと、それぞれの市町村なり、そこで住んでいる、あるいは働いている者たちが一体自分はどの方向を向いて、どういうふうになればいいんだろうということが分かってくるのではないかと思う。

それからもう1点。いろいろな内容が示されているが、私の得意分野はどちらかというと雇用というところになると思う。先ほどもその雇用の関係で企業の誘致だとか、いろいろと話があった。それについては、もう仰るとおりだと思っている。本社機能を東京の方から山梨へ移すという話もあることは事実のようであるが、一方でその逆の話も実は進んでいる。これはその会社だけの問題ではなく、いろいろな地域の諸事情もあるのだろうと思う。結果的に見れば、プラスマイナスでプラスになるのかマイナスになるのか分からないが、何を言いたいかというと、誘致することは非常に大切なことでこれからも進めていかなければならないが、一方では、山梨からいなくなってしまう企業をどう捉えるかについて、具体的にどうしていくのだろうかというところである。企業を誘致する、あるいは誘致をするために人材を育てるというところについては分かりやすいのだが、人口の流出を食い止めるだとか、企業の流出を食い止めるということについては、なかなか具体的なものが私の段階ではまだ見えていないという面があるので、ぜひその辺のところを含めてこれからさらに具体化、また盛り込んでいただけたらありがたいと思う。

(平井産業労働部長)

まず、北村委員からCOC+のお話があり、これは先ほどの加藤委員の話にも通じると思うが、人材の確保・定着ということが非常に大事だと思っている。ご承知のように、県内の人材が大学卒業時に県外に出てしまうということが非常に大きな課題であり、何らかの手立てを講じたいと思っている。

また、北村委員から出されたワーク・ライフ・バランスの関係で、まだ本県は有効求人倍率が1倍に到達していないが、いずれ人材不足というところが表面化してくるだろうと思う。企業にとっても人材をどう確保するか、育てた人材をどう有効に活用していくかが大事になってくると思うので、我々としてもワーク・ライフ・バランスに係る啓蒙活動を今盛んに行っているが、さらに充実させていきたいと考える。

それから、萩原委員からお話があった件であるが、企業誘致にももちろん力を入れるが、逆に転出と言うか、事業再編等に伴い県内から出ていくというようなことも事実としてある。そのため、それを防ぐ意味で、県内にある企業をより伸ばしていくということも重要な施策だと思っている。今回の資料の中にはその関係が具体的にあまり書かれていないという点については、今後検討して参りたい。

(松谷知事政策局長)

まず、飯野委員から全体として女性の目線とか活躍について強めに出したらどうかというご意見があった。労働力としても女性の活躍というのは当然重要であるので、総合戦略を書き上げる時には施策の中に織り込んでいきたいと考えている。

また、牛奥委員から分かりにくい、具体的な内容をというご意見があったが、ダイ

ナミック総合計画の本体の中においては、施策等を21の政策として整理し、その中に細かい施策・事業を具体的に明示していく予定である。それから、まち・ひと・しごと総合戦略についても、現在本体の作成作業を一生懸命やっているところであるが、この中に先ほどの説明の中にもあったKPIという、政策の下の具体的な事業目標を掲げる予定でいるので、その辺で分かりやすさに努めて参りたいと考えている。

(後藤議長)

委員の先生方から具体的に、また、象徴的にとご指摘があった部分については、今松谷局長からお答えしたように、最終案の部分できちっと記載をさせていただきたいと思っている。あわせて、もう少し市町村との連携をしないと具体的な事業にならないのではという萩原委員のお話や地域の住民力、地域力という部分ともっと連携したらどうかという飯野委員からの話については、まったくごもつともであるので、総合計画においてはさることながら、今も同時に作業を進めているいろいろな部門計画を作る際にも、できるかぎり市町村長や市町村の担当者の方とも協議、相談をしながら、できるだけ同じ政策については共有する、市町村ではできない産業政策的なものなどは、少し大きな柱を立てて、できるだけ県全体で対応し、さらにそれでも不十分だったりできないものについては、他の都道府県とも連携するという仕立てで取り組んでいきたいと考えている。各委員の先生方からいただいたご意見については、最終案に向けてきちっと明確にしていきたいと考えているので、ご理解を賜りたい。

(廣瀬委員)

農業関係の代表者という形の中で、この会議に参画しているため申し上げたいのだが、資料1においても資料2においてもどうも農業の問題の取り上げ方が非常に少ないような感じがする。今少し掘り下げ、ブドウ、モモ、スモモが日本一の生産量を誇っている山梨県にとっての果樹産業への取り組み方と言うか、将来の計画がどうも薄いような感じがいたしてならないわけである。この資料2の1ページでは農道の整備や基盤整備には触れているが、実際今非常に難しい問題であるTPPの問題がどういう形で推移していくのか、順には明らかになってはきているが、我々の想像以上の内容が出てきている。そういう中で、県の農政に携わる皆さん方も、将来に向けて今からどういう形に日本の農業、また山梨県の農業はなっていくのか、その辺についてまだ見通しができないのが現状であるので、あまりここで言ってもいけないと思うが、農業問題、基幹産業の果樹農業についてももう少し掘り下げた案をお出しいただけたらと思っている。

(渡辺委員)

私も織物関係の代表という形でこの会議に出席させていただいている。

その中でまず初めに、「人材」のページの関係で、先ほど委員の皆さんからも話があったが、特に織物産地については人材の確保が非常に厳しい部分があるので、この「小・中・高、未来を拓く」という意味合いの中に、織物関係のいわゆる教育的なカリキュラムというものも取り入れていただければと思う。そうすると担い手の養成にもつながると考えるので、ぜひこういう点についても、織物だけではなく、先ほどの農業の関係、それからワインの関係もそうだと思うが、そういったものも幼少期から勉強してもらおうというようなことが将来につながるのではないかなと思う。

また、「人の流れ」のページの中で情報発信という部分があるが、私どもの織物産地、山梨産地というのは全国的に見てあまり知られていない部分がある。今富士の国やまなし館などでも製品を販売しているが、できればメディアを利用して、情報を発信し

ていただくというようなことをしていただければと思う。

それから、これは私には具体的に関係はないと思うが、全体的な話の中で4ページのワーク・ライフ・バランスの関係、子育ての関係について、女性が働ける環境づくり、これは出産や出産後にうまく仕事に復帰するというようなことがあるわけだが、企業等の取り組みを進めるために経営者の意識改革を促すだけでは進まないと思う。経営者の方も非常に厳しい部分があるわけなので、経営者の方々に何か特典を与えるようなことを含めた改革をしていかないと進まないのではないかと。そういうことも総合的に考えていただき、このワーク・ライフ・バランスについてはよく考えていただいたらどうかと思う。

(木田委員)

私はワイン関係の代表という形で来ているが、総合的に見させていただいた。

まず、景観の関係であるが、先ほど進藤委員から電柱の地中化のお話があったが、非常に賛成である。今ワインを通じて観光客がたくさん山梨県に来ているが、そういった方たちが山梨に来て葡萄畑の景観を見て、ああまた来たいなと思う方がたくさんいることは事実である。今太陽光パネルが各地でどんどんできてきて、葡萄畑の中にもできたりとか、いろいろな所で景観を崩しているところが見られる。こういったものも今は規制ができないという状況だと聞いているので、ぜひ太陽光パネルなどが景観を崩していかないような条例等も作っていただけたらと思う。

次に、子どもの学力のところ、郷土愛ということは非常に重要だと考えている。ただ、私も山梨に来て思うのは、盆地であり、なかなか他県との交流もないようなところもあるが、やはり今後は山梨県を世界に通じる県にするためには、海外との交流というのが非常に重要になってくると思う。ですから、子どものうちに外国の子どもたちとの交流で国際感覚というものを作っていくことが、今後の子どもたちを育てる意味では非常に重要ではないかと思う。

次に、富士山が文化遺産という形で山梨県にあるので、それをどう生かすかということはあると思うが、海外に出ていくと日本食、和食の文化遺産ということが非常にクローズアップされていて、いろいろな所に高級な日本食料理店がたくさん出てきている。そういったところに我々はワインをどんどん売り込んでいる状況である。ですから、やはり食文化というものを大切にしていかなければ、どんなに、例えばリアモーターカーができて交流人口が増えたとしても、食文化がないところには人がなかなか留まらないと思う。大きな都市には必ず食文化がある。金沢なども今回新幹線が通った時に、やはり食文化からいろいろな文化が紹介されて盛り上がっていると思うので、ぜひ山梨でも食文化の向上についても取り入れていただきたいと思う。ただ、これを入れるのはなかなか難しいと思う。こういった食文化を支えているのは小規模事業者や個人事業者であったりするので、一人ひとりに支援というのはなかなか難しくできないと思うので、総合的に何か食文化というものを支えるようなプロジェクトができることが望まれる。

最後だが、スポーツ振興とあるが、私が山梨に来て一番感じたのは富士山など山が非常に優れていることである。これだけの山を持っているのにガイドが全然いないというところがあるので、こういったサービス業の専門学校というか、山岳のガイドであったり、あとはホテル等の仲居さんの専門学校というか、この辺りに取り組むことでもおもてなしというものも進むと思うので、そういった専門職の学校というものもぜひ造っていただけたらと思う。

( 笹本委員 )

「ダイナミックやまなし総合計画」を進める上で、私どもも農政部と食の問題、フルーツのブランドをいかにお客様に供給するか等、ここ10年の間に2回ほどいろいろ行っている。食の百選や料理評論家の服部さんをお呼びして食の祭典を開催する等農政部と一緒にかなり行っているが、単発で終わってしまう。先ほど木田委員も仰ったが、ぜひこういって山梨の食の開発を恒常的にやっていただきたいと思っている。そして、食材の中から、何か山梨のブランドを永続的に売り出すものをぜひ作っていただきたいと思っている。農産物は、我々が扱う場合には、安いロットと価格の安定化というのが一番の問題となってきたので、農家においては農協を通して県外に出したほうが高く売れる場合もあるし、逆に県外の観光客にしてみれば、山梨に行ったのであれば名産のブドウとかモモを安く食べられるのではないかという気持ちがあると思う。部署間の縦割りとはまでは言わないが、この障壁みたいなものを、県の調整によってうまく流通も含めて調整していただければと思う。たくさん採れる時には実は安い。そういう時には県外でも安く、他の産地でも安くなると思うので、県外に出していった方が農家は儲かるか、県内に来て消費していただく方が山梨として儲かるか、これは非常に微妙な点だと思っている。その調整は我々には出来ないの、何回かこういうことを過去に農政部と農家の皆さんとで行っている経験がある。

それから、先ほど話が出た富士山の世界文化遺産について、これは必ずしも富士五湖、富士河口湖地区に限ったわけではなく、むしろ甲府盆地の御坂山地または甲府盆地の北側、秩父・多摩のいわゆるクリスタルライン、ここから見た富士山も実は非常に綺麗である。ところが、林道が12月の始めから4月の連休前までほとんど通れない。一番綺麗な、空気の澄んだ富士山の全景を見ることができないというのは、少し残念かと思う。実は楡形山の林道は、写真家の皆さんが朝から場所取りをするぐらいであり、六地蔵やその上のダイヤモンド富士などは、山の中で交通渋滞が起きるほどである。一番いい時期に、観光としてお客様に提供できないという状況があると思う。その点の調整もしていただければと思う。

次に、これも山についてであるが、やまなし観光推進機構が発行している山梨百名山手帳は今回で3冊目であり、大変好評である。富士山だけではなく、山梨には百名山、低い山もあれば富士山級の厳しい山もある。これはスポーツも含めて、山梨の一大特徴ではないかと思っているので、こうした山に対しての登山道の整備等、特に南アルプス級の山になるとかなり多くの遭難が起こっていると聞いているので、百名山、西沢渓谷等、そういうところでも遭難が起こらないような山岳道、登山道の整備等をぜひお願いしたい。

先ほどスポーツについても少し話題が出たが、スポーツも含めて山梨県は全国に誇りうる乗馬やマウンテンバイクやロードレース、特にまた富士川を利用したカヌー等、特殊なスポーツも経験できるので、こういったものに対して、今後さらにインバウンドの方々が利用できるような体制を作っていただければと思う。今、インバウンドの方々は、本当にタイムリーで詳細な情報を必要としている。今日、昇仙峡の紅葉はどうだろうかと思い、観光推進機構のホームページを見たが、実は4、5日前にも見ているが、まだ載っていない状況である。タイムリーな情報というのは、最終的には皆さんの旅行への大きなきっかけになるのではないかと、背中を押すタイミングがよければよいほど旅行の需要は増えるのではないだろうかと思っている。

それからもう一つ、最後になるが、これから増えるインバウンドのFIT、個人のお客様については、周遊観光における二次交通の必要性が多くなってくると思う。二次交通といっても、例えばの話で申し訳ないが、私どものお客様が明野のひまわり畑に行きたいと言った時に、インターネットで探しても、韮崎駅からバスはおそらく1

本ぐらいしか出ていない。その方は女性だったが、車が運転できないということで結局は当社で送ったのだが、そういうところまでかなり二次交通の必要性というのはあるのではないだろうか。もう一つ例を挙げると、昇仙峡の滝上までは皆さん歩くが、その上の夫婦木神社、金桜神社へ行く人もかなりいる。これは必要があるかどうかまた別であるが、あそこは歩いてあまり景色がよくないので、渓谷はまた別であるが、そういうところには二次交通が必要なのかなと。細かい点であるが、こういったこともぜひ調整をお願いできればと思う。

(中込委員)

私はジュエリーの関係で地場産業を代表して来ている。総合計画を読ませていただいたが素晴らしい。こういった形でやっていただければきっと良くなると思った。今日、皆さんの意見を聞きながら、私は違和感が少しあった。何かと思ったが、資料を読んでみて、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」資料冒頭ページの真ん中に、「県民生活の満足度向上を目指す」と書いてあるが、その満足度というのが話ではすべて経済的な発展があってこそその満足度である。確かにそうであるが、県が計画する中で、県民の満足度とはそれだけなのかなとその辺が少し引っ掛かった。この計画は非常に素晴らしいと思うが、ぜひ施行の段階では計画の中に、例えば山梨の県民の自慢できるところとか、県の人と話した時に「山梨はこんないい所だぞ、富士山が綺麗だぞとかヴァンフォーレって面白いぞ」などそういった具体的な話ができるようなことをどこかに盛ってもらいたい。言ってみれば、やさしさというものを施策の中に、ぜひ加えてもらえたらいいと思っている。この計画は、いろいろ読ませていただいた中では非常に素晴らしく、またこれができたらいいなとは思っているが、その辺についてぜひ一つお考えいただきたいと思っている。

(松谷知事政策局長)

まず、廣瀬委員の農業の書き込みが足りないというお話についてであるが、総合計画において、農業は地域産業の中で重要な産業ということで位置付け、書き込んでいる。

それから、渡辺委員の女性の働ける環境づくりや意識改革をもう少し具体的にというお話についてであるが、それに関係する部門計画もあるので、そこで具体的な政策に取り組んでいきたいと考えている。

それから、木田委員と笹本委員からの、いわゆる食文化をうまく使ったらどうかというお話については、産業、観光と農業の連携や、新しい食文化の創出について、新たな農業大綱やこの総合計画等にも書き込むことを考えていきたい。

それから、スポーツ関係についても笹本委員からお話をいただいたが、本県の特徴的なスポーツがあるので、そういった人材の育成等、それからスポーツイベントやその誘致など、その辺についても部門計画を含めて取り組んでいきたいと思っている。

また、笹本委員から情報発信のお話もいただいたが、県のホームページでも情報が古かったりというようなことがあるので、その辺りも注意して参りたい。

あと中込委員からの県民の満足度についてであるが、これは必ずしも経済的だというわけではなく、山梨県では3, 4年に一度、県民の皆様の満足度調査をしており、そうした指標なども利用して、山梨県に住んでよかったというような全体の満足度の向上というのを目指しているところである。

(大熊農政部次長)

木田委員からいただいた葡萄畑の太陽光パネルのお話についてであるが、太陽光パ

ネルについては、つい先日ガイドラインを公表し、景観を崩さないようにとか、農地をきちんと守るといったルールを定めたところ。今後は、このガイドラインに基づき、適切に対応していきたいと考えている。

また、笹本委員からお話のあった農産物のブランド化の取り組みについて、県内の消費なのか県外で売っていくのかというお話があったが、これはどちらか一方ということではなく、県内、国内、あと次の議題になるが海外ということで、それぞれに対して総合的に取り組んでいきたいと考えている。

(中嶋県土整備部理事)

進藤委員と木田委員からお話があった電線類地中化については、山梨県のこの風景を考えた場合に、電柱や横断する電線というのは極めて景観を阻害しているのので、総合戦略の5ページ、「将来にわたり活力あふれる地域を創生する」の「住みよい生活」の取り組みの中で、富士北麓地域を中心として電線類地中化に取り組んでいきたいと考えている。

(佐藤リニア交通局長)

笹本委員から観光客の二次交通についてのお話があったが、現在県民のバス交通はもとより、観光客の二次交通ということも十分意識をしながら、利便性の高いバス交通ネットワークについて検討を進めている。そういう中で、観光客、外国人観光客を含めて、二次交通についてどういう使い方、あるいはどのようなことが必要になるかということをも十分検討しながら、計画の中でそれらを示していきたいと考えている。その際には、インバウンドということも非常に重要な視点になるので、そういう方たちにとって、ご案内を含めてどういうことができるのか検討しながら、計画づくりを進めていきたいと考えている。

(茂手木観光部長)

木田委員からの子どものうちに国際交流をというお話について、現在行政による交流はかなり進めているが、民間における交流ということも文化面、スポーツ面などにおいて大変重要であるので、これも含めて今後とも大いに進めていきたいと考えている。

それからスポーツ振興の関係で山岳ガイドの例が出されたが、観光振興を進めていく上でガイドというのは非常に重要な要素であるので、研修等のあらゆる機会を通じてガイド等を育成することと、もう一つは観光の目玉として外に向かってガイドを大いにアピールしていくことが大切だと考えており、これらについて進めていきたいと考えている。

それから、笹本委員からお話のあった百名山手帳について、この4月に作成した山のグレーディング表が入った百名山手帳を新しく作り、今積極的に配布しているところである。これは、どの山が危険度が高いとか、熟練度が必要かということが書いてあり、山に登る方にとっては非常に重要な資料となるので、積極的に配布を進めていきたいと考えている。

それから、ホームページの関係で、タイムリーな情報が出ていないというご指摘があったが、私自身11月頭に昇仙峡に行き、そろそろいい紅葉になってきたと感じているところであるので、こういったタイムリーな情報については、やまなし観光ネットのトップページなどで大いにアピールしていきたいと考えている。

それから、今申し上げたホームページやその他の媒体についても、多言語化によるインバウンドの環境整備は非常に重要であるので、これも大いに進めていきたいと考えている。

(新井副知事)

いろいろなご意見ありがとうございました。冒頭の説明でもお話したとおり、この骨子に肉付けをしていくが、今年度中にできるものと、それから来年度の予算を踏まえてさらにまた改定していく部分の、おそらく二つあると思う。先ほど、山梨らしさというお話があったが、私が山梨に来てみて、とても大学生が多いということが一つの鍵であり、重要になると思っている。人材のところであったが、それぞれ2040年あるいは2060年を担う世代が山梨を考えていくということで、小・中・高それぞれのところで学んで、それから大学生には地域の課題を解決する実践をCOC+のところでやっていただきたいと思っている。それにより、この戦略が実のあるもの、地に足が着いたものになると思っている。

それから市町村との連携であるが、地方創生の中核は県ではなく市町村だと思っている。今、各市町村の総合戦略が出来上がる段階となっており、福祉や子育て、空き家対策などは、国の枠組み上も市町村が主役ということになっている。こういう中で市町村が行うことを県が後押しするということと、もう一つ産業政策、特に企業の誘致とか産業人材をどうしていくということなどは県が中心になってやるべきものと思っているので、これからの施策・事業の実施の段階で、メリハリを付けながら全体としてうまく役割を分担して進めていきたいと思っている。

(後藤議長)

廣瀬委員からの農業の記載が少ないというお話について、総合計画ではきちんと地域産業元気創造プロジェクトの中で農業について書き込んでおり、農業全体の新・農業施策大綱ではそれをさらに具体化したものとなっている。農は地域の源であるので、その点については私なりにもまた工夫させていただくので、ご理解をいただければと思う。

木田委員、笹本委員からお話があった件について、海外との交流について具体的な話は後ほど国際総合戦略の方で説明させていただきたいと思う。また、食文化という定義もこの中には記載されていないが、いろいろな部門計画等では記載をしており、先ほど松谷局長も答えたが、この中でもどう書き込めるか工夫をしていきたいと思う。

笹本委員からお話があったが、やはり部門間、産業間の連携は、やはり小さい県であるので一体でやっていかなければいけない。ワインの問題一つとっても、原料を作る農家の皆さん、製品として売っていくワイナリーの皆さん、さらに外から来たお客様にそれを景観として見せる観光関係の皆さんの三者が正に一体でないと良くなっていかない。三者がウインウインウインと三つ重ねていかないと。どこかが不利益を被ったりすると、やはり持続可能ではなくなってしまう。また、先ほどお話があったように、一年で何かの事業が終わってしまうということもよくないと思う。そういう意味で、人口というものに特化した計画が総合戦略であり、それ以外も含めた全体計画が総合計画になるので、部門計画と連携し対になってそれを作り上げていきたいと考えてるので、今日のご指摘を含めて対応をさせていただきたい。

最後に中込委員からお話があった「山梨にはこんな良いところがたくさんある」という話については、実は作成中の最終版の総合計画の中で、私の思いも含めて、ブドウ、モモ、スモモ、ジュエリー、織物、富士山、機械電子、ロボットなど、日本一の素材を20ほど記載したが、もしかしたら足りない部分があるかもしれない。その部分については、やはり県外のお客様、海外のお客様、いろいろな方に向けて「山梨にはこんなに良い魅力があるぞ」ということは、先ほど角南委員から「山梨モデル、山梨らしさとうまく言っていないと厳しい」というお話しを裏返しだとも思っている

ので、いろいろな部分を工夫しながら、今日賜ったご意見はきちんといろいろなものに反映をさせながら取りまとめていきたいと思う。

まだご意見、ご質問等あると思うが、時間もきたので、三つ目の議題である「富士の国やまなし国際総合戦略」について事務局から報告をさせていただき、そして今の議論と合わせて一括してご意見ご質問等をいただきたいと思う。

### (3) 富士の国やまなし国際総合戦略(仮称)について

議題(3)について、資料により事務局から説明し、次のとおり意見交換を行った。

説明：中澤知事政策局政策参事

#### (飯野委員)

国際総合戦略について、お願いと言うか提案がある。私は山梨に来て1年3ヶ月、県内にいる留学生の方たちといろいろなことで触れ合う機会がある。留学生の方は何百人かいらっしゃるが、彼らは休みの日にどこに遊びに行くかというところ新宿、渋谷、原宿である。普段の日はというと、アルバイトをしており、県内のすばらしさを実感する機会が少ない。その留学生たちに、県内の良さを知ってもらう機会を作り、SNSで山梨をアピールしてもらうことを考えてはどうか。実は先日留学生と一緒に市川三郷町の神明の花火を見に行った。彼女たちは感動して携帯で花火の様子を写真にとり自国の家族や友達に送っていた。山梨にいる留学生の情報発信力を活用することも考えてほしい。

それともう一点、外国人を受け入れるおもてなし運動についてのご提案である。高齢化で心配されている認知症をめぐっては、認知症のことを学ぶ数時間の研修を受けたサポーターを増やして、みんなで認知症の人を支えていこうという運動が進められている。これをまねて、山梨でも、山梨の良いところ、自慢できる点などを学んだ人をおもてなしサポーターに位置付けて、県民みんなで外国人をおもてなしする運動のようなものができれば素敵だなと思う。3, 4時間の研修で済めば、多くの人がサポーターになってくれるのではないかと。

#### (牛奥委員)

国際総合戦略について、基本戦略、取り組みの柱、共によく考えられていると思う。加えて意見であるが、県内初のノーベル医学・生理学賞を受賞された大村先生の存在も、一つの県の財産としてアピールしていくことも考えに入れるのはどうか。このことは国際総合戦略以外にも、総合計画や総合戦略においても一つのキーワードとなるのではないかと考える。今、2千人もの人が大村先生の美術館に行っている。

#### (加藤委員)

山梨にはいろいろな特徴があり、これらをどういうふうに国内あるいは海外に展開するかという、強力なメッセージの送り方が大事ではないかと思う。

また、この国際総合戦略の5にも「機械電子産業の海外展開等」と書いてあるが、資源のない日本、山梨を何をもって豊かな国、県にするのかということからいくと、やはり人間を教育すること、いろいろな価値を生み出す原点の人材というものをどうしても他国に比べて先行させていかなければいけないと考える。だから、仕事という価値をどう創造するかという点、そしてその価値をいかに形にしていくかという点が問題である。山梨の物づくりというのは、結構な世界レベルの物ができる様な状

況である。しかし、いつになってもどうも仕事量が不足しているような状態である。なので、その先は何かと言うと、これは日本全体の問題にもなるが、やはり研究開発である。先ほど申し上げたように、新たなものを創造するようなものを一部でも山梨に誘致してきて、そういう環境を作る必要があるのではないか。並行して山梨の付加価値が上がるようなことをすることによって、優秀な社員確保に向けた待遇の改善へつなげられることが全ての原点になるのではないか。学校教育あるいは企業教育など結構山梨はやっていると思う。山梨には工業技術センターもあれば、産業支援機構もある。いろいろな形でやっているが、さらに競争がどんどん激化している中において、そこを先行する必要があると思うので、よろしく願いしたい。

( 笹本委員 )

国際総合戦略の取り組みについて、インバウンド観光に関して、今日たまたまネットで見てみると、山梨総合研究所の方が8月31日に「インバウンド観光におけるゴルフツーリズムへの期待」という記事を書いていた。いろいろツーリズムはあり、先日行われた峡東地区におけるワインツーリズムはかなりの反響と成功裏に終わったと聞いているが、ゴルフツーリズムというのは初めてであったので、これを少し読んだ。これから先、ゴルフツーリズムというのが増えるのか増えないのかということであるが、世界のゴルフ場百選に日本から3つも4つも入っている。それから日本は世界でもゴルフ場が多い国で、2,400箇所もある。こういう中で、県内のゴルフ場でゴルフツーリズムを受け入れますかという問いかけに、受け入れると答えたのが60%あったので、今後いろいろな意味での可能性をぜひ追求していただきたい。

何を言いたいかと言うと、実は3年ぐらい前に当社に100人の団体がバス3台で来た。それも2月の非常に寒い日で平日、東京の会社で2泊の申し込みだった。会社が終わってから18時に東京を出るので、湯村に着くのは20時過ぎ。当日は宴会をして、次の日にバス3台に乗って出かけた。出かけた先は、1台は清里のスキー場、1台は南斜面のゴルフ場だった。もう1台は観光ということで武田神社。この何が面白いかというと、冬の2月に、わずか東京から2時間の場所でゴルフとスキーが一緒にできるという非常に特殊性があること。これを何とか世界に発信していただければと思う。我々が地元で見ていると、この発想はなかなか普通に出てこない。しかし、お客様というのはそういうことを分かっている。ひとつの会社で、若い人が非常に多い会社であるが、そういう企画をした人はすごいと思う。我々が考え付かないことをふと実行に移す本当の消費者の賢さというか、こういうことをやはり我々はいかに情報発信していくかということが問われているのではないかとということで例を挙げた。

( 進藤委員 )

冒頭の私の質問と少し重なるところであるが、基幹産業を機械電子産業と捉えている中で、この国際総合戦略では富士の国やまなしブランドを世界に発信するということであるので、ここは機械電子産業というよりも、どちらかという観光であったり、山梨特有の農業であったり、水の文化であったりとかおそらくそういう産業が山梨ブランドの中心になると思う。そうすると、一方では基幹産業を機械電子産業と捉え、一方では別のものを中心に捉える。何か力が分散されてしまうような気がする。だからもう少し、この辺の整合性というか、先ほど角南委員が山梨モデルという話をされたが、やはり山梨ブランドといった時に、加藤委員には申し訳ないが、機械電子産業をもって山梨ブランドとはなかなか言い難いところがあると思う。そういう意味でもう少し、山梨ブランドを统一的にアピールできるような方向性があればいいのではないかと感じた。

(角南委員)

進藤委員などが仰った景観については、実はすごく重要であり、国際戦略と一体していくと思っているので、ぜひ景観のところは考えて進めていただければと思う。

それから、戦略7の姉妹都市交流の深化というところを拝見すると、ブラジルや中国など、非常にユニークな所と交流をされていると感じた。特に大学間交流というのはポイントになると思う。四川省の四川大学は非常に優秀な人材があり、四川省自体にもものすごい規模の人が住んでいるので、もう少し戦略的にそういったところと地元の大学あるいは大学生が交流をすることで、もしかしたら日本の中でナンバーワンになる交流相手として、山梨の特徴が出てくる部分があるかなと思った。また、ブラジルのミナスジェライス州立大学というのは、私の古い友人がずっとそこで教えていて、私も何回か講義に行ったことがあるが、非常に親日の学生が多い。ただ、日本で勉強する機会がほとんどなく、日本と交流したいが、たくさんの日系人はいるが実際日本とのアクセス面においてはなかなか窓口がない。しかし、ブラジルの中では非常にレベルの高い大学で、レベルの高い学生がたくさんいる。なので、このミナスジェリスも非常に面白いところだと思っている。将来的に見ると、ブラジルや中国というようなところで、こういうピンポイントでせっかく窓口があるのだったら、まずは若い人の交流、そしてそれを使うプラットフォームとして大学間交流をぜひこの戦略7の中に入れていただけたらいいのではないかなと思う。

(木田委員)

観光を考えるのであれば、他の国のものをいろいろ見の中で、映像のコンテンツが非常に充実をしていると感じる。先週香港でのワイン&スピリッツや展示会に出てきたが、その時にバックに富士山が飾ってあったが、そこに映像として山梨県にはこんなものがあるんだぞというものを流せば、非常に効果的だと思う。やはりビデオやスチール写真でも山梨でフリーで使えるものはなかなかないので、そういったものも作ってもらえれば山梨の観光を世界に向けてアピールできると思う。

(茂手木観光部長)

まず飯野委員からお話があった留学生によるSNSの発信について、留学生もしくは県内に来ている外国人の方々による県内観光地等のSNSによる発信の効果は、非常に高いということは大いに認識している。私の記憶によると、平成23年の東日本大震災、福島原発事故があって、外国からのお客様が非常に落ち込んだ時期があり、この時のひとつの有力な手法としてSNSの発信を始めたというような経緯がある。大勢の方によって体系的・システムの進めていくというようなところまではなかなか至っていないという面があるので、これについては今後とも大学などとよく連携する中で、留学生等によるSNSでの山梨県の魅力情報の発信について進めていきたいと考えている。

それから笹本委員からお話があったゴルフツーリズムの関係であるが、確かに山梨県は、人口10万人当たりのゴルフ場の数というものが非常に多く、富士山の麓、八ヶ岳周辺など非常に環境のいいところでゴルフができるという非常に恵まれた状況にある。そこで、今年度ゴルフ場の支配人会の方々とお話を進めており、日本だと沖縄や福島などが先行して行っているが、山梨でも2、3モデル的にゴルフツーリズムをやってみたらどうかというようなことを現在協議中である。

それからゴルフを含めロードレースやカヌーなど、いろいろなスポーツが山梨では経験できるというような話をいただいたが、まさしくそのとおりであり、山梨にはこ

ういった美しい自然をフィールドとして、様々なスポーツが体験できるといった特徴がある。しかも首都圏に近いので、これは全国あるいは国外に向けて、スポーツツーリズムとして大いにホームページ等あらゆる媒体を使って情報発信を進めていきたいと考えている。

それから角南委員からお話のあった大学生の交流であるが、これも先ほど子どもたちの交流のところでも申し上げさせていただいたが、行政による国際交流以外に、民間での交流、特に若い人たちの交流は、国際交流を進めるうえで非常に重要なことだと考えている。例えば、中国の四川省、最近ではインドネシアのガジャ・マダ、今年度においてはフィリピン大学やマニラ大学というようなところと、大学間で包括的な交流の約束事・覚書というようなことを行い、そのメインはやはり留学生の交換である。こういった施策については、他の地域においても、あるいは別の大学においても、今後とも積極的に進めていきたいと考えている。

(平井産業労働部長)

加藤委員からご指摘いただいた機械電子産業の海外展開、それからそのベースになるものとして産業の発展なり雇用の創造ということだと思うが、先ほども委員からお話をいただいたように、ご承知のように2年後には中部横断自動車道開通という非常に絶好の機会が山梨県には訪れる。それを活用した企業誘致を一つの大きな柱とされている。併せて先ほどもお話しさせていただいたように、県内企業の、新たな成長分野への展開を進めるための研究開発。これについても、大学あるいは公設研究所等と連携する中で積極的に取り組みを進めたいと思う。また、そのベースとなるのはやはり人材育成と地元企業への定着だと思っているので、それぞれに力を入れていきたい。

(松谷知事政策局長)

進藤委員より、総合計画における基幹産業とこの国際総合戦略との整合性のお話について、仰る意味合いも非常に重要だと思っている。ただ、総合計画については、全体でそれぞれのプロジェクトに分けており、基幹産業と捉える産業をどう発展させていくか、それから地域産業という視点で、農業を始めとする地場の重要な産業をどう発展させていくかという区分けになっている。そうした中でブランドというものは、やはり委員の仰るように農畜産物であるし県産品だろうと思っている。そういう考え方でここでは整理させていただいている。

それから、この中にはインバウンドとアウトバウンドと両方書かれており、総合戦略5の機械電子の部分については、機械電子ももちろん産業を発展させていくということであるが、その海外展開についてこういう道筋があるだろうというところを、この国際総合戦略では書いているが、いただいた意見については十分整合性を検討させていただきたいと思う。

(加藤委員)

まち・ひと・しごと創生総合戦略素案の4ページであるが、いろいろ環境を作って結婚していただいて出生率を上げていくとなっている。ここで合計特殊出生率1.6を目指しているが、こういう見方というのはできないか。と言うのは、これは暗い部分だからあまり皆さん言わないようにしているのだろうけど、結婚しない人の率、これが山梨は47都道府県の中でどういう位置にあって、どういう対策をしたか。結婚しなければ、出生率も上がらない。そういう角度でものを見ることはできないのか。

(三井人口問題対策室長)

生涯未婚率というのは、人口ビジョンの方でお示しをさせていただいたが、最近の数字、2010年のものだが、男性が19.48%、女性が8.19%。1980年代は女性・男性ともに5%以下だった。最近全国的に傾向は同じであるが、男性の未婚率がかなり上がっている状況である。何故かという、厚生白書などによると、昔は男性も女性もそうであるが、社会的に結婚しないと一人前ではないというような風潮があったが、最近はあまりそれがなくなってきているというようなところである。あとは、男性の若い方に非正規雇用が多く、なかなか経済的にも結婚に踏み出せないというようなところもあるようである。県としても、結婚していない人に結婚していただくというようなことで、この総合戦略において、子育て環境の出会いの部分に書かせていただいた。まず結婚するという意識を持っていただくという中で、人材の部分で、小さいうちから家庭を大切にするというような教育を子どもに行い、将来家庭を持つのはいいことだよというようなことを教えながら、大きくなったら若者には結婚していただくということで、社会全体で結婚の気運を醸成していく。結婚の部分に関しては、何年か前まではあまり行政が関与しないというようなところがあり、他の取り組みに比べると取り組みがつい最近といった面があるので、これから一生懸命やっていきたいと考えている。

(後藤議長)

国際総合戦略については、今日は素案の中間報告という形であるが、先ほどご説明したように、今まで国際戦略、国際的な部分でそれぞれの産業をどう見るべきかという統一的な県の施策がなかった。先ほど委員からもお話があったように、部門間・産業間の連携ができていないという面もあった。インバウンドのお客様について、どちらかという県内では、今観光と言われている部分だけに焦点が当てられがちであるが、いわゆる爆買という部分では食や地場産業という部分でも大きくプラスになるということもある。

今日いただいた意見の他、もしこういう視点を加えながら対応してほしいというご意見があれば、文書等でぜひ事務局の方にお寄せいただきたい。

角南委員からもお話があった大学間連携については、友好県省締結30周年の四川省とも記念式典等いろいろな提携を行い、30周年から次のステージに向けて、これから大学生、またもっと若い生徒も含めて交流を深めようということを考えている。ガジャ・マダ大学等についても、既に山梨大学とも連携をスタートしているので、11月には私もインドネシアにお伺いし、州知事ともお話をしながら、より一層若い人たちが行ったり来たりする、ひいてはその10年、20年先に今よりもっといい関係になっていくことにつながっていくよう取り組んでいく。

いろいろ貴重なご意見を賜りましたことにお礼を申し上げます。ぜひ言い足りなかった委員の先生方については、ぜひ文章や電話などでご意見をいただきたい。私がいないうちであれば副知事あてにファックスでもメールでも結構である。

それでは次回の開催予定について、事務局から説明を。

(中澤知事政策局政策参事)

次回については、現在のところ1月下旬から2月中旬にかけて日程調整した上で開催させていただきたいと考えている。また開催時間については、今日と同じぐらいの時間帯と考えている。テーマについてもまた庁内で検討してお知らせしたい。よろしくお願いたします。

(後藤議長)

冒頭でもお願いしたように、たくさんの部門計画も並行的に動いている。今日大きな3つの計画について、事務局から説明し、そして委員の先生方からご意見をいただいた。いただいた意見をできるだけ踏まえた形で最終的な場面に臨みたいということをお話させていただきながら、第3回やまなし未来会議を終了させていただく。議事進行について、委員の皆様方のご協力に感謝を申し上げたい。

本日はお忙しい中、本当にありがとうございました。

4．閉会

司会：松谷知事政策局長